

第28回基本政策部会・第52回宇宙安全保障部会合同部会
議事録

1 日 時

令和4年12月19日(月)17:30～18:30

2 場 所

中央合同庁舎4号館12階 全省庁共用1208特別会議室

3 出席者

(1)委 員

(基本政策部会)

白坂部会長、常田部会長代理、青木委員、石田委員、臼田委員、片岡委員、篠原委員、角南委員、中須賀委員、松井委員、南委員、山崎委員

(宇宙安全保障部会)

鈴木部会長、片岡部会長代理、青木委員、石井満委員、石井由梨佳委員、遠藤委員、久保委員、白坂委員、新谷委員、中須賀委員、名和委員

(2)オブザーバ

宇宙航空研究開発機構(JAXA) 石井理事

(3)事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官

(4)関係省庁

総務省国際戦略局宇宙通信政策課	小川課長
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課	上田課長
経産省製造産業局宇宙産業室	伊奈室長
国土交通省総合政策局技術政策課技術開発推進室	川村室長
環境省地球環境局総務課気候変動観測研究戦略室	山田室長
防衛省防衛政策局戦略企画課	田邊課長

4 議事(○:意見等)

(1)宇宙基本計画工程表の改訂について

<事務局より説明>

○久保委員 細かい点、具体的な点ではないのですが、全体的なコメントですが、私、2014年に初めて

この委員会に参加させていただいて、その頃のことを思い出すと、私はそのとき外から見ていたのですけれども、まだ防衛省が宇宙での存在感もそれほど大きくなく、また余り積極的なようにも見えない時期でしたので、そういう時期を思い出しますと、今日、閣議決定で安全保障関係の三文書が正式に決定されるなど、本当に隔世の感があります。

今、こういった状況で防衛省ががががやるようになったということで、航空自衛隊も航空宇宙自衛隊に名前が変わるということで、略称を何とするのか興味津々ではあるのですけれども、そういう意味で防衛省が本格的に取り組むようになったということは、本当にいいことだと思います。

他方で、この委員会としては、あちらで起きた変化をさらにほかの部分にどう反映させて、どう調整していくか。微妙な変化ではありますけれども、そういう役割の変化が起きているのではないかという感じがしますので、その辺り、どこかで一度自覚的に、これからの委員会のより建設的な在り方みたいな、あるいは方向性とか、そういったものを探っていくといいのではないかと感じた次第です。今日の議論に直接関係ないかもしれませんが、失礼ながら少しだけ発言させていただきました。

もう一点は、日米の宇宙協力で少し包括的な形で網をかけるやり方というお話があって、本当にそれはすばらしいアイデアだと思います。いろいろな意味で日本との結び付きは切っても切れないのだという形で、これでもかといういろいろな形で、日米の様々な関係、特に安全保障面での関係を緊密化させておくことが極めて重要であると感じています。

ですので、この宇宙政策においても、アメリカから見て日本とのパートナーの関係、日本との協力は絶対不可欠だという形に持っていくことが、いろいろな意味で必要なのではないかと感じています。

○鈴木部会長 今、久保委員のおっしゃったことは正にそのとおりで、日米の枠組協定というのは極めて画期的なものだと思いますし、今後、アルテミス計画を進めていく上で、ゲートウェイとそれ以外の個別の協定を一々結んでいくというのは、今、委員のおっしゃったように、アメリカ側が政治的にややとつきにくいというんでしょうか、交渉しにくい相手の場合、一々個別の協定でやっていくというのは非常に負担が大きいのと、進むべきものが進まないということが起こり得ますので、この点については是非進めていただきたいと思っております。

それに関連してですけれども、我が国の宇宙活動を支える総合的基盤の強化のところ、日米豪印の4か国による宇宙分野の協力ということで、これはQUADの首脳会議でも、宇宙からの海洋情報の共有というか、協力を進めるということが書かれていましたので、この日米豪印でこれから協力を進めるに当たって、我が国の情報収集衛星を始めとする情報収集能力の強化は、金曜日に発表されました国家安全保障戦略にも書かれているわけですが、こうした情報収集能力の強化。特に、海の場合は、単にAISのデータだけではなく、SARのデータ。

それから、コンステレーション。今回のいわゆる戦略三文書と言われる国家安全保障戦略、防衛計画、それと防衛力整備計画の中には、そういった具体的な記述はなかったわけですが、恐らく今後検討していかなければならない課題であろうと思っていますので、日米関係だけでなく、QUADまで広げた国際協力というのがこれから求められるのではないかと考えております。

○片岡委員 質問というよりもコメントになってしまうのですが、先週、ワシントンに行ってきたのですが、日米協力とか多国間協力でスピードが重要だなと。今、アメリカとの協力で目立っているのは、英国

が非常に力を入れてきて、日本が準天頂のホステッド・ペイロード以降、あまり具体的な協力関係が構築できていないので、もっとやろうよという意見が多かった。防衛戦略三文書もできましたので、これから重要な時期なので、そのときにスピード感が重要です。

できれば文言だけじゃなくて、線表の方も、目標年度、検討期間とか、そういうものを具体的に書いていくことが、これから非常に重要だと思いますので、これから一層努力をお願いしたいと思います。

次の問題は、工程表とはちょっとかけ離れるのですけれども、これから宇宙における日米協力、多国間協力でセキュリティの話が出てきます。セキュリティクリアランスを含めて、これは政府が今後、一層投資していく努力が必要ですので、それについて宇宙政策委員会としても、来年議論する必要があるのではないかと考えております。

○白坂部会長 1点目のスピード感は、ずっと御指摘いただいている点かと思っています。今回は、具体的に幾つか年度が出たところもありますし、引き続き、より具体化していく項目も出てくるかと思っておりますので、御協力をお願いします。

あと、クリアランスの件もずっと項目として挙がってきている件かと思っていますので、こちらにつきましても、また議論を深めていくことが必要かなと考えております。ありがとうございます。

○中須賀委員 総合的基盤の強化の中で、小型衛星周りの人材育成のことは書いているのですけれども、恐らく人材育成だけではなくて、小型衛星に関する先進的技術の開発をもっと予算を掛けてやらなければいけないのではないかと考えています。これまで小型衛星の世界というのは、主として大学等による政府のグラントですね。宇宙の予算ではなくて、そういったところを取りに行くことによってやっていたけれども、今は世界の状況を見ていると、アメリカ、ヨーロッパを含めて、宇宙の予算の中からここががんがん投資をし始めているというところもあるので、この分野を戦略的にどういう技術を開発するかということの検討も含めて、投資していくことが必要ではないかと思っています。

それから、もう一つは、同じように、政府全体、JAXAさんの予算も含めて、いわゆる基礎研究、将来に向けてのちょっと先のものに向けての基礎投資、予算の投資が非常に少ないということで、先物のところでも世界から後れを取り始めている。もう大分取ってしまったところもあるので、こういったところをキャッチアップするような先進的な技術、将来の技術に向けての投資をどう進めていくかということについての検討がすごく大事である。これは、何に投資するかという戦略立案も大事だし、それをどうお金を投入するか。それから、投入したお金をどう回していくかというインプリメンテーションも含めて、しっかり検討していくことが必要かなと思っています。

それから、国際協力の観点で言うと、アメリカとの傘協定というのは、ずっと懸案になっている、いわゆるTSA(テクノロジー・セーフガーズ・アグリーメント)ということに関係するものなのかどうかということだけ教えていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○河西局長 傘協定とTSAは、必ずしも関係するものではございません。

○中須賀委員 分かりました。

○新谷委員 スペースデブリについて、ガイドラインを作ったり、その他のことで国際的なルール形成を先導する役割ができるのではないかと考えていますので、国際的に広くこの分野を先導していただけたらと思います。

○山崎委員 次年度、小型衛星コンステレーションが本格化してくるということで、それに併せて民間の小型ロケット事業が促進ということも書いてあるのですけれども、この辺りの検討も、衛星側と歩調を合わせた形で、きちんと日本の産業につながるように加速していただければと思います。あくまで、日本の衛星は日本からきちんと小型も含めて打ち上げられる制度を整えてはということですので、よろしく願いいたします。

○白坂部会長 では、実行の段になるときに、気をつけて、その辺りを実行できればと思います。ありがとうございます。

○名和委員 サイバーセキュリティの観点からですが、これだけ研究開発が加速してきますと、きっと窃取されると思います。どこの文言にも情報保全とか、想定すべきサイバー脅威のことを書いていません。そのため、実行上で構わないと思うのですが、落とし込むときに、情報保全あるいは新しい内閣官房の枠組み等を尊重しながら行うことを配慮していただきたいと思っております。

○白坂部会長 ありがとうございます。実行上、その辺りは是非注意していきたいと思っております。

○滝澤参事官 御指摘ありがとうございます。関係省庁の皆さんに関係する話ですので、宇宙事務局が中心になってしっかりと対応していきたいと思っております。ありがとうございます。

○南委員 例えば宇宙安全保障の確保で各種商用衛星等の利活用でも、民間の小型衛星コンステレーションを用いた情報収集の推進などがあるのですが、衛星を整備するところまではよく書かれているのですが、打ち上げた後、どのようにオペレーションをやり、どう有効活用していくかという視点で、これに限らず、衛星を打ち上げた後のオペレーションという視点でも、是非御検討いただければと思います。

それと、こういった分野で民間の物を使うということになると、サイバーセキュリティの話は避けて通れないと思いますので、そういった話も来年度以降の話になると思いますが、民間企業会に対する支援の制度を、国のほうからもしていくといいのかなと思いますので、是非お願いします。

○滝澤参事官 オペレーションの視点とおっしゃったのは、ユーザーがどういうふうにするのかをしっかりとシステムを構築するよということでございますね。

○南委員 はい。それと、ユーザー側として、どのような体制でデータを活用していくかという視点。

○滝澤参事官 国で開発するときには、もちろんどういうふうに使われるのかという話をしっかりと御相談しながらという話を、今、関係省庁で正しく議論している最中でございますし、民間の衛星につきましても、内閣府の予算などを使いながら、どういうニーズに対応できるかという話を、関係省庁も含めて使い方のところをしっかりとフォーカスしていこうという議論をさせていただいております。

それから、サイバーセキュリティの話は、名和委員と同じような御指摘かなと思いますけれども、しっかりと対応していきたいと思っております。具体的な支援策というのは、実は今、ないのではないかなと思っておりますが、経産省さんを中心にサイバーセキュリティのガイドラインを宇宙の関係でも作ったりしておりますので、何ができるかというのを考えてまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○南委員 どうもありがとうございます。

○白坂部会長 今は、内閣府を中心にアンカーテナンシーを使いながら、実証しながら、利用省庁と一緒にやっていく。それらをしっかりと進めながら、整備しただけじゃ何の意味もないので、ちゃんと使えるものにしていくことができればと思います。あと、セキュリティはおっしゃるとおりなので、この辺りは引き続き、名和委員からの御指導も頂きながら進めていければと思います。

○青木委員 御質問としてお伺いしたいと思います、例えば工程表の国際的なルール作りの推進というところで、COPUOS本委員会では何を行うかということの記載はあります。法律小委員会のほうで、今、宇宙資源法のワーキンググループが設立されていて、そこで日本は主体的に関わっていくという記述がないのですけれども、これは宇宙資源法の適切な運用を行うとともに、ここで読み込むものなののでしょうか。ちょっと違うような気もするのですが、ほかのところに書いてあるのでしょうかということについて、お伺いいたしたく存じます。

○滝澤参事官 青木先生が御指摘された点については、関係者と相談して追記の方向で検討させていただきたいと思います。

○名和委員 先ほどのサイバーセキュリティの続きでございますが、平成26年に成立されましたサイバーセキュリティ法の第6条に重要社会基盤事業者の責務とありまして、この工程表を読みますと、宇宙関連事業者等が重要社会基盤事業者、いわゆるインフラ事業者の方になっていくのかなと思っています。そこで、この法律には、最後のほうに、「自分たちで頑張れ」(自主的かつ積極的にサイバーセキュリティの確保に努める)としか書いていないのですが、国はサイバーセキュリティに関する施策に協力するよう求めるものとする。宇宙に関する重要インフラ事業者になった場合、国がそれに対してセキュリティ施策を強力に求めないといけないとあります。

内閣府とか各省庁の担当者でそれぞれ頑張るのか、工程表にはそれはまだ書いていませんので、法律に照らし合わせた国の行政各部のリーダーシップのところを、ここに基づいて努力していただきたいということが補足でございます。

○白坂部会長 特に大手だけじゃなくて、これから宇宙スタートアップもインフラ事業者扱いになっていくかと思しますので、実施の段階では、こちらとしてもちゃんと支援しながら、しっかりとセキュリティを守れるようにしていく必要があるかなと、今、理解いたしました。

○遠藤委員 少し印象論になってしまうかもしれないのですが、ベンチャーに極めて光が当たっている。これは、ここ数年の傾向だと思うのですけれども、防衛については従来型産業のグローバル化も含めて、支援しなければというか、国と一体となってやらなければならないという意識が強くなるころなので、宇宙も既存のプレイヤーというか、大企業にも目配りをしていただけるとよいなど、そのようなところを感じた次第です。

○白坂部会長 ありがとうございます。多分、似たような議論はこれまでもあったかと思えます。決してスタートアップだけでは生きていけないのと、スタートアップの元となっている技術は、実はもともといた企業さんがJAXAさんと開発したテクノロジーがたくさんありますので、先ほどの中須賀委員の基礎的な研究が足りないというところは、正に必ずしもスタートアップとか大学だけではないところも含めての意見だったかなと理解しています。実施の段階においては、気を付けながら進めていけるようにしたいと思います。

○中須賀委員 アメリカなどは、この宇宙のいろいろな産業のベースとなる力がDoDによる様々な研究開発であったり、投資であったり、そこで力を付けたいろいろな技術、ベンチャー、大きな会社も含め、それが民間にどんどん打って出て、世界における強い産業力になっていると感じておりまして、そうなっていくと日本もうれしいなと思うところなので、そこを是非よろしくお願ひしたいということでコメントさせていただきました。

○石田委員 正にこれから、防衛三文書を受けて、宇宙として一体何ができるのか、どうやっていくのかということだと思っておりますけれども、この分野は本当に今、ダイナミックに変化しているなと感じるところで、従来どおり、ある種政府が中心となって、ベンダーとして民間企業に入ってもらって、政府が保有する宇宙システム

をつくるケースもあれば、サービス調達のケースもあれば、ハイブリッドのケースもある。

民間企業側も、つい昨日か一昨日ですか、マクサーがPEファンドに買収されるというような、いろいろダイナミックなことが起きていまして、使われている技術に関しても、従来型の安定した技術を使うところもあれば、この間、SpaceXがStarshieldという安全保障のソリューションを発表したように新しい技術の利活用もあるということなので、今回、日本として新しくこの分野で本当に力を入れてやっていくことだと思うので、いろいろな官と民の連携とか、使う技術のオプションとか、幅広くオプションを見た上でダイナミックに取り組んでいくことができるといいのかなと思いました。

官と民の連携のうまい座組みができて、スピード感をもって日本の宇宙産業競争力につながるようになっていくところを設計できるといいと思って、是非この分野は力強く取り組んでいっていただければなと思います。

○白坂部会長 御意見ありがとうございます。言うのはあれですけども、やるのは難しそうですが、皆さんの御協力の下、進めていく必要があると思いますので、石田委員の方も是非御支援のほう、お願いいたします。ありがとうございます。

○石田委員 ありがとうございます。

○白坂部会長 本日の議題は以上になります。それでは、本日の部会はこれで閉会としたいと思います。

以上